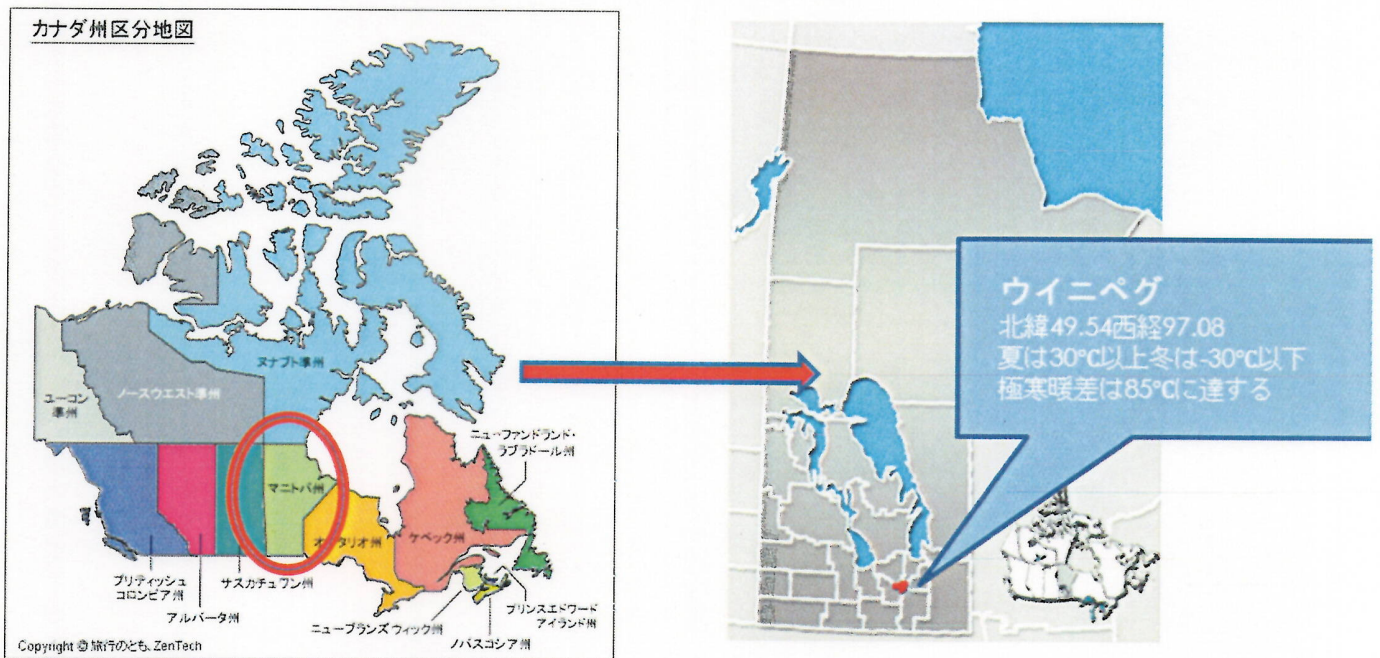


マネージメント情報

※ アメリカとカナダの搾乳ロボット事情

5/28-6/3 の日程でアメリカとカナダの搾乳ロボット農場を視察してきましたので報告します。畜産クラスター事業が後押しし根室管内でも搾乳ロボット牛舎が少しずつ増えてきています。THMS のお客さんも同様で、また検討している方もいらっしゃるので、改めて搾乳ロボットの状況と最新の換気システムとの情報収集でした。きっかけは私が担当している別海の信田牧場さんが今年のクラスター事業でロボット牛舎を考えているということと4月にカナダの Alta Genetics 社から弊社を訪問された David Chalack さんのカナダの搾乳ロボット事情のお話でした。氏の話によるとカナダでは既に 20%の普及率とのことでした。



6 年間にも一度カナダ酪農についてこの欄で紹介しましたが、カナダの酪農は皆さんご存じのとおりクォーター制度がまだ続いていてこの制度のおかげで制約はありますが酪農家は守られています。また同様の制度は EU にもあり 30 年間続きましたが 2015 年 3 月に廃止され、その結果は新聞等のニュースでも報道されていますが乳価は下落し酪農家は大変なようです。東部二州のオンタリオ州とケベック州で未だに 80%以上の乳生産があり、酪農の規模も搾乳牛 20-30 頭という酪農家がまだまだ営農しているそうです。また東部二州はトロント、モントリオール、オタワといった大都市があるので酪農に関する雇用もさほど問題にはなっていないそうです。

今回訪問しましたウイニペグ市のあるマニトバ州はカナダの中央部に位置し、緯度的にはサハリンの中央部とほぼ同じで夏の気温は 30℃を超え冬は-30℃を下回り極寒暖差は 85℃にもなりますが、土地が肥沃で主な農業は小麦、コーン、大豆の畑作です。酪農はカナダ全体の 3-4%程度の生産量でしかありません。酪農家戸数は 270 戸、乳牛頭数は 35,000 頭で別海町全体の 1/3 位の規模でしょうか？

今回お世話になったのは David Chalack さんの友人でカナダの Lely 社の Richard Peters さんという方でマニトバ州の酪農家で生まれ育った生粋の酪農家で 1989 年のワールドエキスポと翌年の 1990 年のカナダのロイヤルアグリカルチャーショーでもグランドチャンピオンを取った経験があ

る方で、また 100 頭規模のフリーストールでの酪農経験もあり酪農家サイドの視点で今の仕事をされている印象でした。

今回の視察が酪農州としてはマイナーなマニトバ州になったのはカナダで搾乳ロボットの普及率が抜きん出て高いということで David さんがアレンジしてくれました。現在の普及率は 40% ですが Richard さんは将来的にはロボットの普及率は 10-15 年後にはマニトバ州では 90%、カナダ全体でも 70% になると予想していましたが、実際に現地の酪農家を訪問しお話を聞くと雇用や家族労働の限界

労働力としては中南米のメキシコ、パラグアイやフィリピンから働きに来ているそうですが、それも安定して維持するという事は難しいのが現状のようでした。

直接酪農家の方のお話しとしてわかりやすかったのが、「3 回搾乳をしたかったが自分が夜中に起きて搾乳をするのが私はイヤだったからだ」という話でした。実に単純明快な理由でした。

3 回程度に分けて今回の視察の情報を紹介しようと思っっていますが、今回は特に印象深かったことを箇条書きにして紹介します。個々の農場の詳しい内容については次回以降にします。

- ① 90%の人はパーラー使わない…初乳から廃棄乳まで全てロボットで対応
- ② 既存の牛舎へのロボットの導入が多い(パーラー搾乳をやめる)…新築牛舎ではない
- ③ どんな牛舎でもロボットの導入は可能…ロボットさえ凍らなければ良い
- ④ 段階的に規模拡大(ロボットの増設)をしていく…固定観念ではなく柔軟に考える
- ⑤ ロボットで搾れない牛はいない…時間がかかるが最終的には搾れる(効率は悪い→淘汰)
- ⑥ ロボット搾乳には乳頭はある程度大きい方が良く…ロボットが認識し易いから(レーザー照射)
- ⑦ 酪農の世界にも自動化が進む…敷料入ロボット、除糞ロボット(バキューム型)、TMR ロボット
- ⑧ それでも 100 年以上経過している施設(搾乳牛舎→哺育牛舎)を利用していました

等の問題と実際にロボットを導入した後のお話を聞くとなるほどと思いました。

＜カナダのロボット普及率＞

ケベック	6-7%
オンタリオ	6-7%
マニトバ	40%
アルバータ	20%
ブリティッシュコロンビア	15%

・みなさん、ご査読をしておりました。約3年ぶりのマネジメント情報になります。今回の搾乳ロボットの情報はいかがでしたか？カナダでは今後も搾乳ロボットが普及していくことが予想されています。今回の視察で一番良かったことは既存牛舎でもどんな牛舎でもロボットの導入が可能だということでした。選択の幅が飛躍的に広がったように感じました。

・アメリカは二極化が予想以上に進み Wisconsin 州では一軒で 5,000~7,000 頭規模の一つ屋根の牛舎 (500m×300m) を新築する酪農家が地域毎に普通にできています。一方クォーター制度のあるカナダでは家族経営の 20-30 頭規模の酪農家が営農しています。ご存知ない方が多いのですがカナダと日本の酪農規模はほぼ同じで 130 万頭 (成牛 + 育成牛) を超えたところです。カナダは 21 世紀に入ってきてほぼ横ばいで維持していますが、日本は減少の一途を辿り農水省の推計では 5 年後には 100 万頭を切ってしまうとのこと。成牛・育成牛を合わせた数字です。このことが今後の日本の酪農にとって一番の問題になっていくとおっしゃる方がいました。